

平成二十九年「花のまわりみち」

川柳入選句

小島 蘭幸 選

天地人・秀逸

「天位」

散髪を済ませて花の門くぐる

中植勝己

(評) 造幣局の桜を見る時は、いつも身形を正しているのです。あの人にふつと会えそうで・・・。

「地位」

凛として桜が似合う浅田真央

若山宗彦

(評) 浅田真央の引退会見は、実にさわやかでした。正に桜の花のようでした。

「人位」

桜吹雪心美人になるわたし

松岡 登代子

(評) 桜吹雪の中になると、男の私でさえもふつとこんな気持ちになります。心美人、いい言葉です。

「秀逸」 (五句)

ふんわりと蕊を包んでいる妹背

飛田陽子

(評) 今年の花、妹背をじっくりと見ておられます。ふんわりがあなたかいです。

喜寿三人花の下にて花の声

岡田典子

(評) 同級生三人、桜の下ではみんなあの頃に戻るのです。

たんぽぽをさくらのしたにみつけたよ

日山みさき

(評) 桜だけではなくて、足元のたんぽぽをしっかりと見つめているのがいいですね。

まわりみち散る花びらを子らが追い

八藤秋登

(評) まわりみちと桜と子供達、美しい情景です。

花を詠み見知らぬ人と笑い合う

吉川美佐子

(評) 投句箱のまわりが、にぎやかだったので、どこから来られたのか聞きました。佐賀と岡山から来られてました。美しい笑顔でした。

佳作

(十八句)

世界から櫻けんぶつ平和なり	工藤 詠子
遠き日の笑顔とまわる桜道	茶山 美幸
まっ先に妹背に逢ってまわりみち	斉藤 千恵美
花ふぶきこのまま昇天してもよし	高村 光子
小鳥来てたちまち桜吹雪かな	中植 紀子
まわり道して花人になる私	正山 史明
全身にさくらのパワーいただきました	森 茂子(さくら)
寄り添って妹背の下の自撮り棒	山下 天平
まわり道櫻見すぎてまいごだよ	鈴木 春
夕焼けの舞台に舞うや花手毬	田中 宏之
さくらのみちまたらいねんもあるきたい	福井 杏菜
大手毬会話も弾む花日和	兒玉 ありさ
桜道カープとともに永遠に咲け	日下 学
幼ならと愛でし桜を今ここに	光安 美穂子
まだ開花してない妹背またあおう	日山 陽子
花を見て名を見て花に眼を戻す	石橋 康徳
春うらら今年の花をさがしあて	吉弘 清
八重桜母の笑顔も重なって	浦 千恵

選者吟

わたくしと妻と桜と青空と

小島 蘭 幸